

市民協働推進事業補助金報告会審査会委員総評

審査委員長	岩崎恭典氏	四日市大学教授
審査副委員長	桜井温子氏	特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
審査委員	田中寿美氏	北名古屋市民
審査委員	能村義則氏	北名古屋市役所総務部長

皆様一年間お疲れ様でした。皆様の事業報告を聞いていて、団体や地域における高齢化が進行していると感じました。これは一刻を争う事態です。次の世代にどうつなげていくか、今までのように縦割りではなく連携が必要になってきます。発表の中にもありましたが、実行委員形式で事業を進めていくというスタイルは、各々の得意分野を活かすという意味で有効な手段です。また、北名古屋市全体を見ると、もっと連携をすべき団体があります。それが地域組織や学校です。コミュニティスクールの設置が努力義務化されましたが、学校にコミュニティスクールを作ってもらうようでは駄目です。地域で作って学校に選んでももらうくらいが理想です。学校の図書館を地域で運営するなどの取り組みがあっても良いと思います。学校の先生たちは、これまでなかった英語やプログラム等の新しい授業が増えたことでいっぱい입니다。地域全体で学校を支えるという仕組みが必要ではないでしょうか。地域のおじいちゃんやおばあちゃんも関われるようなものだとお良いと思います。

北名古屋市にとって、名古屋芸術大学は地域の資源です。学校側も、学生を地域で勉強させたいと思っているはずで。高校でも新しく「探究」という授業を取り入れ、地域の学習を重視するようになりました。2年後には大学入試改革が本格実施されます。学生たちは、地域でどれだけ活動したか、それにより何を得たかが問われるようになってきます。しかし地域は、学生たちに試験を受けるためだけの「やらされボランティア」をやらせてはいけません。地域が子どもたちをどう成長させられるかを考え、自主的に関与してもらうことが大切です。また、子どもたちに「この地域は嫌だ」と思わせては駄目です。高校生をどう地域活動に組み込んでいくか考えていく必要があります。

そのためには、小学校・中学校・高校・市民団体の横のつながりを取り持つ地域団体が必要になってきます。それは、市役所の外に中間支援組織として存在することが理想的です。今日発表してくださった市民団体の中から、そのような団体が出てくることを期待しています。